

## 緊急人道支援学会 企画セッション ユースセッション

### ■ 要旨

緊急人道危機に対して、大学生や大学は様々なことを行うことができる一方、大学生や大学ということによる制約も多い。ユースセッションでは、大学生や大学(とりわけ大学ボランティアセンター)が、緊急人道危機に際し何ができるのかについて議論を行う。具体的には、まず、大学生たちが、現在、自分自身が行っている活動(難民支援、被災地支援)について、1)どのような活動を行っているのか、2)学生として行うことでどのような限界があるのかという2点から報告を行い、次に、大学附設ボランティアセンターの教員であるセッション・コーディネーターが、大学附設ボランティアセンターによるボランティア活動の限界についての報告を行い、最後に、これらの限界の解決に向け支援を専門とする人々や組織に対して何を期待するかについて討論を行う。

### ■ 略歴および発表内容

#### 【登壇者】

上遠野永生

早稲田大学社会科学部 1 年、災害ボランティア研究会

2024 年より、早稲田大学災害ボランティア研究会にて、大分県中津市での防災ボランティアや石川県輪島市での復旧ボランティアに従事。学生にとっては継続的な参加や遠隔地での参加が難しい。専門家には、ボランティアに参加するための情報の提供を期待する。

根津瑚春

早稲田大学先進理工学部 3 年、リトルヤンゴンプロジェクト

2024 年より、リトルヤンゴンプロジェクトにて、ミャンマーからの難民の支援を実施中。大学生にとっては保護者との外国語での会話が難しい。専門家には、(本活動は教育活動であるが、自分は教育系の資格が無いため)、資格がないことの課題の解決法の提供を期待する。

村井南海

早稲田大学社会科学部 2 年、イーグルアフガン明德カレッジボランティア

2024 年より、イーグルアフガン明德カレッジボランティアにて、アフガン難民の支援を実施中。大学生にとっては、自分たちの考えを支援先の主催者に伝えることが難しい。自分たちの活動を活性化させたいときに、ワンストップで多角的な助言を頂ける場の提供を期待する。

## 【グループでの報告】

須藤慈泉

早稲田大学文化構想学部 1 年、CFF Japan

2024 年より、NPO 団体 CFF ジャパンにて、日本人がマレーシアやフィリピンで国際支援を学ぶ機会を提供する活動を実施中。学生にとっては金銭的負担が厳しい。専門家には、実践的ノウハウの提供を期待する。

海野遼

東京理科大学創域理工学部 2 年、CFF Japan

2024 年より、認定 NPO 法人 CFF ジャパンにて、マレーシアでの現地支援と、日本国内での青年育成事業及び能登支援活動を実施。学生にとっては横のつながりが課題となる。専門家には、連携の場の提供を期待する。

新田望乃佳

文教大学国際学部国際理解学科 2 年、CFF Japan

2024 年より、認定 NPO 法人 CFF ジャパンにて、マレーシアでの現地支援と、日本国内での青年育成事業及び能登支援活動を実施。学生にとっては活動の継続性が課題となる。専門家には、ボランティア活動への参加方法や継続的支援の必要性を共有する機会の提供を期待する。

## 【司会者】

黒崎眞子

2024 年 3 月、早稲田大学教育学部卒業、現在、民間企業に在職中

## 【コーディネーター】

佐々木俊介

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター 講師

2010 年 2 月からインドネシアのスラム街において滞在型の調査を開始し、現在までに 1040 日(41 回渡航)滞在している。スラム街では、ウェイト・ピッカーの生活誌とともに、インフォーマル・リサイクルの研究を行っている。学術振興会特別研究員(PD)終了後に、人と防災未来センターに勤務し、災害に関する研究も本格的に実施し、現在は、災害ボランティア活動も行っている。

## ■ セッションの流れ

- ・セッション・コーディネータによる趣旨説明(3分)
- ・司会者の自己紹介(2分)
- ・報告者による発表(各自 10 分:発表 8 分+質疑応答 2 分)
- ・座長による大学附設ボランティアセンターの限界の報告(5分)

- ・司会による報告者から事前に収集した要望の報告(5分)
- ・総合討論(15分)
- ・ポスター・セッション(20分)

#### ■ その他

報告も司会も大学生や新卒 1 年目の卒業生が行っており、様々な方法で活動内容を報告することで、なるべくわかりやすく伝えるということを心がけています。そのため、プレゼンテーション資料だけではなく、要旨集やポスターも準備しておりますので、ご来場いただけますと幸いです。